Y16c 岡山天文博物館所蔵の分光器「新カセ」についての展示解説

安藤和子, 石神あやゑ, 岡田育磨, 加藤真奈, 谷川恒一, 由井隼人, 福田尚也, 田邉健茲, 赤澤秀彦（岡山理科大学）, 粟野諭美（岡山天文博物館）

岡山天文博物館には、1984 年から 2001 年まで岡山天体物理観測所で使用されていたカセグレン分光器（通称「新カセ」）の、現物が展示されている。しかしながら、その解説はまだ作成されていなかった。岡山理科大学は浅口市と教育に関する協定を結んでおり、生物地球学科・天文学コースでは、岡山天文博物館で博物館実習をしている。そこで私たちは、2015 年度の博物館実習のテーマとして、来館者に対して教育・普及的意味を持つ「新カセ」についての展示解説の制作に取り組んだ。

展示解説では、開発の経緯、新カセの特徴などの観点から、これについての説明を行うことを目的とした。分光器の過去と現在を比較し、違いを示すことでその仕組みや原理が確実に現在の天文学の観測ににつながっていることを学んだ。またその上で、新カセの外見や、可能な範囲で内部を調べ写真撮影を行い、構造を調べた。これらの写真資料も展示物として活用できると思われる。なお、現在分光器の要となる回折格子は取り外され、岡山天体物理観測所に保管されていることも判明した。このような装置を歴史的資料として残すことは重要であると考えられる。